

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400877		
法人名	株式会社グループホーム		
事業所名	グループホーム浄心の杜 2F		
所在地	名古屋市中区上名古屋三丁目13番3号		
自己評価作成日	平成30年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2370400877-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切にし、開放的な空間の中で一緒にテレビを観る、話しをし笑い合う、ゆったりと過ごす…そんな雰囲気作りを大切にしています。
可能な限り、散歩にでかけたり、近所の喫茶店にいたり、個別レクリエーションで外出をしていただいています。
また、筋力トレーニングを行い、下肢筋力の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度、利用者一人ひとりをもっと知ろうと「マッピング」を取り入れた。職員が担当して一人の利用者の動きの変化や表情等を記録し、カンファレンスで話し合い、その人に合ったケアの見直しをすることになった。じっくり見ることに慣れてはいないが、利用者「その人を見る」が、始まったばかりである。
管理者は「職員が元気で働ける職場作り」に取り組み、それが実を結んでいる。管理者との信頼関係は強固で職員も協力して支え合っている。離職率ゼロの雇用の安定した職場は、利用者にとって混乱することなく穏やかに過ごすことができる環境である。毎年終末期支援や看取りを行っているが、職員に不安は感じられない。「詳しく報告・連絡してくれる」「注意深く見守ってくれる」「スタッフさん皆元気で」等、家族アンケートでも好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にす。2. 笑顔あふれる空間を創造する。3. お客様の生活の安心・満足・充実を図る。4. 仕事の安心・満足・充実を図る。5. 地域間、事業所間の充実を図る。6. 経営の安定・拡大を図る。玄関に貼りだし来客にも分かるようにしている。	ホーム内に法人理念6項目を掲げている。理念の一つ「思いやり」を実現するため、玄関には顔写真付きの職員全員の利用者に対する「目標」を掲示し、公表して職員一人ひとりが取り組んでいる。	理念は常に立ち戻る根本的な考え方であり、職員間で話し合い、振り返る機会を持ち、実践のケアに活かすことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と買い物に行き、店で会話をしたり、喫茶店で、お客様と会話していますが、日常的な交流は少ないです。	ホームが建物の2・3階に立地するというハンディはあるが、中学校の福祉体験、ボランティアの受け入れ、保育園児が敬老の日にプレゼントを持って訪問している。隣のデイサービスの催しものに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象には行なっていないが、運営推進会議を通して、認知症についてや介護の不安等についての意見交換は行なっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に対するサービスの実際、事業所での取り組み等を報告している。又、今後のサービスが向上できるように意見交換を行うよう努めている。身体拘束廃止の取り組みについて、報告や話し合いをしている。	利用者の生活しているリビングで、運営推進会議を年6回開催しているが、地域代表、家族中心の運営推進会議となっている。会議は、ホームの行事の紹介や報告事項が中心である。	運営推進会議に行政の参加を呼び掛けて開催し、会議を活性化させ、目標達成計画の進捗状況や意見・助言を得て、ホーム運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との密な連絡はありませんが、伺った際に取り組みや施設の事を、お話をさせて頂いています。	生活保護受給者が3名入居しており、区の保護係の担当者の訪問や窓口に出向き、相談や助言を貰っている。介護保険課や地域包括支援センターに出かけ、担当者との関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、建物の構造状、死角があり開放まで実施できていない。又、身体拘束については会議で勉強会で課題に取り上げ話し合いを行い、申し送り等で意識統一を図っている。	ホームが建物の2・3階にあることから、玄関の施錠はないが、ユニット入口の扉を施錠している。職員は研修を通して身体拘束による弊害を学んでおり、スピーチロックについても配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いに意識を持ち、言葉遣いなども配慮した上で声かけをしている。虐待ではないかと思われる声かけや、行動については個別に注意を呼びかけている。また、あざや傷などがないか、気をつけて見ている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会がなく職員は理解できていない。権利擁護の研修を申込み中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、規程等は分かりやすく分け、契約前に自宅を訪問し、契約内容の説明をおこなう。又、疑問や不安点があれば、随時受け付け相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを中心に掛けている。利用者やご家族に出された意見、要望等は申し送りやミーティング等で話し合い、反映している。	運営推進会議や家族来所時に、利用者の状況を説明し、意見・要望が言い易い関係を築いている。家族アンケートでも「健康状態・生活面を詳しく報告・連絡してくれる」と好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で、運営に関する職員の意見を聞き、出来るだけ反映するようにしている。	月1回の全体会議があり、職員が意見を述べる機会がある。管理者はいつでも職員の話聞く体制をとっており、職員から「何でも言い易い」との言葉もある。良好な関係がうかがえ、話し合う体制も出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。又、職員の資格取得に向けた支援も行っている。管理者は職員の疲労や思い、人間関係等をいつでも、上司に相談・報告でき、会社全体で考える環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では定期的な勉強会を行い、スキルアップの場を設けている。又、新人が入った時には働きながら個別に指導している。資格支援制度を使い、資格取得も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流はできていない。施設内での勉強会を通じて、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ず本人とゆっくり話し時間を取り、これまでの生活状態や求めている事を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めていることや不安なことなどを、ゆっくり聞く時間を作り、事業所ではどのような対応ができるのか、相談に応じている。又、今後の介護計画につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案をしている。内容によっては、他のサービス利用の情報も提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に部屋でゆっくり話す事で、本人の思いや苦しみ、不安を分かち合うことも多く、お互いが相談しやすい環境を作っている。又、利用者から力をいただく事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談はもちろん、日常の変化を伝え共有して行くように努め、協力関係ができるようにして行く。行事などの参加を呼びかけ、本人との共有時間の提供を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と墓参りに出かけたり、馴染みの美容院へ行かれています。外出レクでは昔馴染みの商店街の散策や、知人を訪ねています。	牧師が訪ねて来ている。家族の協力で自宅に帰る、墓参り、美容院、お墓参りを続けている利用者があり、これまでの馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。習字や塗り絵等、趣味の継続支援もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係が上手く行くように、会話の中でも職員も一緒に入り、コミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから継続的な関わりを持つような働きかけはしていないが、家族から連絡があった時は、必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好を聞いたりして、食事の献立として提供している。また外出レクリエーションがあり、本人の希望を聞き取り、なるべく希望に添えるよう計画している。意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさを観察し、理解に努める。	利用者の思いを把握するため、利用者に寄り添い、日々の話の中から思いを引き出している。余り話さない利用者は家族から情報を得たり、相手の立場に立って考え、やってみて表情等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境を聞き出し、把握に努めている。趣味(好きな事)など、できるかぎり継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを奪わないよう、利用者のADLに合わせた支援を心がけている。生活活動への自立支援や、役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望を聞き、反映するように努めている。入浴や食事など、時間や形が決まっている事への要望に応えるのは難しいが、できるかぎり近いものとし、提供できるように努めている。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、更新時にはサービス担当者会議を開催している。介護計画は、健康面やADL中心に作成されている。家族の意向、本人の意向欄の記述は繰り返しが多い。	日々の支援の中から利用者・家族の要望に合わせた、個別で具体的な目標を設定し、利用者・家族・職員が達成感が得られる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目、事柄にわけ、バイタル、食事、日々の様子などを細かく記載し、個別記録として記載している。申し送りや会議で、情報の共有し定期的にカンファレンスを開いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており、利用者の健康管理に努めている。又、緊急のご家族との外出や外泊にも臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行っている。 (傾聴ボランティア・中学校介護実習)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、利用者、ご家族希望に応じて対応している。協力病院以外への受診や通院に関して、基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。	月2回の協力医、訪問歯科の往診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアを受けている。かかりつけ医の受診は、基本家族対応であるが、柔軟に対応している。協力医との信頼関係は看取り場面で発揮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じていただける。医療に関する不安や疑問点なども気軽に相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、利用者の状況把握に努めており、又、ご家族との情報交換を行なっている。退院後の対応や注意点などを相談、話し合える場を作れるよう、担当医師等に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針の同意をご家族からいただいております。事業所が対応し得るケアについての説明を行なっている。又、本人やご家族の意向を踏まえ、医師と連携をとり、随時連絡が取れるようにしている。	医療的ケアがない限り、利用者・家族の意向を繰り返し確認して方針を決めている。今年度1件の看取りを行い、現在も2名の終末期支援をしている。家族もホームに泊まり、最期を看取することができる。看取り後も、家族2組がホームの職員に会いに来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アクシデントマニュアルに沿って対応する。又、勉強会で、初期対応を学び、利用者の状態変化に応じて、対応方法を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、疑問点などを消防署に相談し避難の方法も変更したが、地域との協力体制は築けていない。	年2回(日中想定)の避難訓練を実施している。ホームが2・3階であり、消防署のアドバイスもあって、ユニット毎に1部屋に集まり救出を待つことに決めている。	夜間想定避難訓練の実施を望みたい。災害はいつ起きるかわからない。職員が少ない夜間の時間帯を想定し、一部屋に誘導する訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思や誇りを損なわないよう、さりげなく声かけやケアをするよう心がけている。利用者との関係性が慣れ合いになる事もあり、言葉かけや対応に配慮するよう、注意している。	利用者をトイレに誘導した際には、トイレの戸を閉めて外で待機する等、尊厳を損なわないように支援している。「自分が嫌なことはない」を心がけている。入浴時にはタオルを掛けて羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを大切に、本人の意思ペースに合わせている。意思表示の困難な方でも表情やしぐさを観察し、押し付けるような支援をしないよう留意する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気分に応じて支援ができるよう心がけているが、全て満足して頂いているには、至っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替など基本的にできる方には、自己にて洋服を選んで着ていただく。毎月理容師が訪れ、本人の好みに合わせてカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の施設目標が利用者の満足度の充実を図るをかね、満足の行く食事の提供を行っています。利用者から好みの食事の聞き取りを行い、希望の食事を提供している。また、準備や片付けも手伝って頂いている。	栄養委員会でメニューを決め、食材宅配業者から食材が届く。利用者の重度化に伴い、食事作りは職員が行っているが、テーブルを拭く、食器を拭く、盛り付け等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録、データとして残し、把握している。水分量などが低下している利用者には嗜好を取り入れたりと工夫している。又、変化があれば往診で相談しており、定期的な血液検査も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りを行い、出来ない方には毎食後のケアを行なっている。又、週に1回口腔ケアサービスを利用している入居者もあり、口腔状態の確認含め指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況の把握に努め、トイレの声かけや誘導を行なっている。トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を付け、トイレでの排泄を基本に支援している。定時誘導や利用者個々に合わせた誘導を行い、さりげない声掛けや見守り支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬に頼らず自然排便ができるよう、水分量の把握、飲食物の工夫に努めている。又、散歩の他、体を動かす運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、一週間に二回、入って頂いてますが、業務もあり、一人ひとりの希望を叶えた時間で入って頂く事はできていません。	週2回の入浴支援を実施している。重度化に伴いシャワーキャリーの使用や、職員2人対応の入浴がある。利用者の拘りにも配慮し、好みのボディソープを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間心地よく眠れるように季節に合わせて寝具を変えたり、室内の温度調節を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の内容を個人ごとにカルテに入れており、全職員が把握、確認ができるように徹底している。また、新しい薬に関しては、その都度申し送り、職員全員の周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、日々の生活活動の中で楽しみや役割作りなどを見つけていくようにし、興味が持てるような声掛けを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩をするなど、戸外に出るようにしている。普段行けないような場所に行く場合は、事前に見下りやスケジュールを作り、当日事故やトラブルがないよう留意している。	天候にも左右されるが、極力近隣公園に散歩や買い物に出かけており、近所の人と話す機会もある。外出ドライブで行く花見等は、利用者の大きな楽しみになっている。個別ケア外出も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はご遠慮していただいています。欲しいものがあれば、ご家族と相談し、お預かりしている、お小遣いから購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に対して電話希望があった場合も、事前にご家族と話し合い対応している。年賀状なども希望に応じて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、快適に生活ができるように、フロア・廊下・トイレなどの共用部は整理整頓、掃除ををし清潔に努めている。また、温度管理に気を配り、健康に過ごせるよう、心掛けている。	食食用テーブルの他に大きなソファがあり、一角には畳敷きのコーナーが設けられ、落ち着いた空間がある。職員と一緒に作成した掲示物があり、居心地よく過ごす工夫がある。食後のひと時、塗り絵に熱中する利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを含め座る所を多く作り、自由に移動して、好きな時に好きな事ができるようにしている。また、二階、三階の利用者がフロアを自由に行きし、気のあった方とお話して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品などを持ってきていただいています。また、ご自分で作られた作品や趣味の物を飾り、安心とやすらぎの空間をつくるよう工夫しています。	居室には洗面台が設置され、介護ベットが備え付けられている。使い慣れたソファ・筆筒等が持ち込まれ、思い思いの居室になっている。習字の先生だった利用者の作品や塗り絵等、居心地よい雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は、見守りをおこない、安全で自立した生活が送れるよう、支援していますが皆様、ご高齢になられ認知も進み、できることが少なくなりました。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400877		
法人名	株式会社グループホーム		
事業所名	グループホーム浄心の杜 3F		
所在地	名古屋市区上名古屋三丁目13番3号		
自己評価作成日	平成30年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切に、開放的な空間の中で一緒にテレビを観る、話しを笑い合う、ゆったりと過ごす…そんな雰囲気作りを大切にしています。
可能な限り、散歩にでかけたり、近所の喫茶店にいたり、個別レクリエーションで外出をしていただいています。
また、筋力トレーニングを行い、下肢筋力の維持に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400877-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 8月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にする。2. 笑顔あふれる空間を創造する。3. お客様の生活の安心・満足・充実を図る。4. 仕事の安心・満足・充実を図る。5. 地域間、事業所間の充実を図る。6. 経営の安定・拡大を図る。玄関に貼りだし来客にも分かるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と買い物に行き、店で会話をしたり、喫茶店で、お客様と会話していますが、日常的な交流は少ないです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象には行っていないが、運営推進会議を通して、認知症についてや介護の不安等についての意見交換は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に対するサービスの実際、事業所での取り組み等を報告している。又、今後のサービスが向上できるように意見交換を行うよう努めている。身体拘束廃止の取り組みについて、報告や話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との密な連絡はありませんが、伺った際に取り組みや施設の事を、お話をさせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、建物の構造状、死角があり開放まで実施できていない。又、身体拘束については会議で勉強会で課題に取り上げ話し合いを行い、申し送り等で意識統一を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いに意識を持ち、言葉遣いなども配慮した上で声かけをしている。虐待ではないかと思われる声かけや、行動については個別に注意を呼びかけている。また、あざや傷などが無いのか、気をつけて見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会がなく職員は理解できていない。権利擁護の研修を申込み中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、規程等は分かりやすく分け、契約前に自宅を訪問し、契約内容の説明をおこなう。又、疑問や不安点があれば、随時受け付け相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や運営推進会議等で常にかきかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを中心に掛けている。利用者やご家族に出された意見、要望等は申し送りやミーティング等で話し合い、反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で、運営に関する職員の意見を聞き、出来るだけ反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。又、職員の資格取得に向けた支援も行っている。管理者は職員の疲労や思い、人間関係等をいつでも、上司に相談・報告でき、会社全体で考える環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では定期的な勉強会を行い、スキルアップの場を設けている。又、新人が入った時には働きながら個別に指導している。資格支援制度を使い、資格取得も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流はできていない。施設内での勉強会を通じて、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ず本人とゆっくり話し時間を取り、これまでの生活状態や求めている事を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めていることや不安なことなどを、ゆっくり聞く時間を作り、事業所ではどのような対応ができるのか、相談に応じている。又、今後の介護計画につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案をしている。内容によっては、他のサービス利用の情報も提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に部屋でゆっくり話す事で、本人の思いや苦しみ、不安を分かち合うことも多く、お互いが相談しやすい環境を作っている。又、利用者から力をいただく事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談はもちろん、日常の変化を伝え共有して行くように努め、協力関係ができるようにして行く。行事などの参加を呼びかけ、本人との共有時間の提供を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と墓参りに出かけたり、馴染みの美容院へ行かれています。外出レクでは昔馴染みの商店街の散策や、知人を訪ねています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係が上手く行くように、会話の中でも職員も一緒に入り、コミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから継続的な関わりを持つような働きかけはしていないが、家族から連絡があった時は、必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好を聞いたりして、食事の献立として提供している。また外出レクリエーションがあり、本人の希望を聞き取り、なるべく希望に添えるよう計画している。意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさを観察し、理解に努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境を聞き出し、把握に努めている。趣味(好きな事)など、できるかぎり継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを奪わないよう、利用者のADLに合わせた支援を心がけている。生活活動への自立支援や、役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望を聞き、反映するように努めている。入浴や食事など、時間や形が決まっている事への要望に応えるのは難しいが、できるかぎり近いものとし、提供できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目、事柄にわけ、バイタル、食事、日々の様子などを細かく記載し、個別記録として記載している。申し送りや会議で、情報の共有し定期的にカンファレンスを開いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており、利用者の健康管理に努めている。又、緊急のご家族との外出や外泊にも臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行っている。 (傾聴ボランティア・中学校介護実習)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、利用者、ご家族希望に応じて対応している。協力病院以外への受診や通院に関して、基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じていただける。医療に関する不安や疑問点なども気軽に相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、利用者の状況把握に努めており、又、ご家族との情報交換を行なっている。退院後の対応や注意点などを相談、話し合える場を作れるよう、担当医師等に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針の同意をご家族からいただいており、事業所が対応し得るケアについての説明を行なっている。又、本人やご家族の意向を踏まえ、医師と連携をとり、随時連絡が取れるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アクシデントマニュアルに沿って対応する。又、勉強会で、初期対応を学び、利用者の状態変化に応じて、対応方法を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、疑問点などを消防署に相談し避難の方法も変更したが、地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思や誇りを損なわないよう、さりげなく声かけやケアをするよう心がけている。利用者との関係性が慣れ合いになる事もあり、言葉かけや対応に配慮するよう、注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを大切に、本人の意思ペースに合わせている。意思表示の困難な方でも表情やしぐさを観察し、押し付けるような支援をしないよう留意する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気分に応じて支援ができるよう心がけているが、全て満足して頂いているには、至っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替など基本的にできる方には、自己にて洋服を選んで着ていただく。毎月理容師が訪れ、本人の好みに合わせてカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の施設目標が利用者の満足度の充実を図るをきっかけ、満足の行く食事の提供を行っています。利用者から好みの食事の聞き取りを行い、希望の食事を提供している。また、準備や片付けも手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録、データとして残し、把握している。水分量などが低下している利用者には嗜好を取り入れたりと工夫している。又、変化があれば往診で相談しており、定期的な血液検査も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りを行い、出来ない方には毎食後のケアを行なっている。又、週に1回口腔ケアサービスを利用している入居者もあり、口腔状態の確認含め指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況の把握に努め、トイレの声かけや誘導を行なっている。トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬に頼らず自然排便ができるよう、水分量の把握、飲食物の工夫に努めている。又、散歩の他、体を動かす運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、一週間に二回、入って頂いてますが、業務もあり、一人ひとりの希望を叶えた時間が入って頂く事はできていません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間心地よく眠れるように季節に合わせて寝具を変えたり、室内の温度調節を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の内容を個人ごとにカルテに入れており、全職員が把握、確認ができるように徹底している。また、新しい薬に関しては、その都度申し送り、職員全員の周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、日々の生活活動の中で楽しみや役割作りなどを見つけていくようにし、興味が持てるような声掛けを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩をするなど、戸外に出るようになっている。普段行けないような場所に行く場合は、事前に下見やスケジュールを作り、当日事故やトラブルがないよう留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はご遠慮していただいています。欲しいものがあれば、ご家族と相談し、お預かりしている、お小遣いから購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に対して電話希望があった場合も、事前にご家族と話し合い対応している。年賀状なども希望に応じて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、快適に生活ができるように、フロア・廊下・トイレなどの共用部は整理整頓、掃除をし清潔に努めている。また、温度管理に気を配り、健康に過ごせるよう、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを含め座る所を多く作り、自由に移動して、好きな時に好きな事ができるようにしている。また、二階、三階の利用者がフロアを自由に行きし、気のあった方とお話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品などを持ってきていただいています。また、ご自分で作られた作品や趣味の物を飾り、安心とやすらぎの空間をつくるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は、見守りをおこない、安全で自立した生活が送れるよう、支援していますが皆様、ご高齢になられ認知も進み、できることが少なくなりました。		